

# ボーイスカウト城陽第1団

## 入団資料

(2012-2013 版)

### 目 次

1	ボーイスカウト運動の概要	.....	1
2	ボーイスカウト運動の目的と方法	.....	2
3	ボーイスカウト運動と宗教、政治	.....	2
4	ボーイスカウトの活動	.....	3
5	ボーイスカウトへの入団、入隊	.....	4
6	ボーイスカウトの組織図	.....	5
7	スカウト育成会について	.....	6
8	団について	.....	7
9	ビーバースカウト隊について	.....	8
10	カブスカウト隊について	.....	11
11	ボーイスカウト隊について	.....	17
12	ベンチャースカウト隊について	.....	18
13	ローバースカウト隊について	.....	18

## 1 ボーイスカウト運動の概要

### ボーイスカウトの始まり

ボーイスカウト運動は、イギリスのロバート・ベーデン・パウエル卿（B-P）によって始められました。B-Pは英国陸軍の将校であった時代に、インドやアフリカに行って大変な苦勞をしました。そして将校を辞めてから、B-Pはその当時の厳しい自然環境での生活体験をもとに、イギリスの青少年が立派な国民や社会人となるのに役立つ訓育計画を、多くの人々の協力によって考え出しました。

1907年の夏、B-Pは21人の少年たちとともに、イギリス海峡にあるブラウンシー島で2週間のキャンプをすることにしました。この計画は少年たちがとても喜び、結果は素晴らしいものでした。

この体験をもとに、少年たちに野外活動のすばらしさ、グループでの遊びの楽しさを教えた「スカウティング・フォア・ボーイズ」という本を1908年に著しました。この本は、多くの少年たちに読まれ、イギリス各地の少年たちはこの本のとおりの実践を、実際にやっとうと歓迎され、グループを作り、野山を駆け巡りました。

やがて、この運動がスカウトの班や隊といったスカウトの組織に整えられていきました。そして少年たち（ボーイ）、少年たちより若い少年たち（ウルフ・カブ）、青年たち（ローバー）ができていきました。

この運動は海を越えて、全世界に広まり、シニア、（後のベンチャー）、ビーバーができて、それぞれのプログラムが確立され、初め11才から15才の少年を対象にして始められたボーイスカウト運動は6才の少年少女から青年にいたる一貫した教育システムとなり、現在は全世界217の国と地域で約2,800万人が活動しています。

日本では1922年（大正11年）に後藤新平伯を総長として少年団日本連盟を結成し、“一日一善”を目指し、青少年の育成に努力してきました。

後藤総長が少年に与えた言葉に“人のお世話にならぬよう人のお世話をするようにそして報いを求めぬよう”があります。

ボーイスカウトの活動は野外活動を通じて、強健な身体、立派な品性、人生に役立つ技能、奉仕の精神等の良い社会人になれるように資質を養い、“やくそくとときまり”、“やくそくとさだめ”、“ちかいとおきて”を実践することが、ボーイスカウトの活動の基本であり、年齢層に応じて5つの隊に分けて、一貫したプログラムに基づいてそれぞれの隊に適したプログラムで活動しています。



2月22日はボーイスカウトの創始者ベーデン・パウエル卿の誕生日（1805年）であり、ボーイスカウトでは、これを祝い、多くは2月22日の近くの土曜日か日曜日にB-P祭を行っています。

ベーデン・パウエル卿はボーイスカウトの仲間の間ではその頭文字からB-P（ビーピー）と呼ばれ、親しまれています。

## 2 ボーイスカウト運動の目的と方法

創始者 B-P は、スカウト運動の目的を「少年たちがよい社会人となり、幸福な人生をおくること」と端的に表現しています。私たちは、ひとりでも多くの青少年がこの運動に参加することによって強健な身体、立派な品性、人生に役立つ技能、他の人々への奉仕の精神といったよい社会人としての資質を養い、幸福な人生を送れるような、社会に役立つ力を身につけることを願っています。そして、青少年がその自発活動により、自らの健康を築き、社会に奉仕できる能力と人生に役立つ技能を体得し、かつ、誠実、勇気、自信及び国際愛と人道主義を把握し、実践できるように教育することをもって目的としています。



スカウト運動の基本方針は、「ちかい」と「おきて」の実践を基盤とし、B-P の提唱する班制教育と、各種の進歩制度と野外活動を、幼年期より青年期にわたる各年齢層に適應するように分け、成人指導者の協力によってそれぞれに即し、しかも一貫したプログラムに基づいて教育することを教育方針としています。

入隊に際し、スカウトは「ちかい」をたて、「やくそく」を守ることを誓います。これは運動の基本的な精神であり、スカウト自身の信条であり、あるべき姿を示しています。また、「おきて」と「さだめ」を設けています。これはスカウトの日常生活での行動の指針であります。これら2つがスカウト運動の基礎となり、活動の底流となります。細目については各隊の説明の項で記述されています。基本方針は年齢層に適應するよう分けています。ビーバー、カブ、ボーイ、ベンチャー、ローバーでそれぞれを隊として活動しています。

運動の教育は、「班別制度」と「進歩制度」という独特の教育制度から成り立っています。「班別制度」とは、少年の心理に通じた小さい自治的なグループで、そのグループ活動を通じて、協力心と責任感を養おうとするものです。指導者は小グループ内の少年たちのそれぞれの個性をよく見て指導します。「進歩制度」とは、『進級制』と『技能章制』の2つの種類があります。『進級制』は、色々定められた課目を成し遂げることによって、段々と進級していく制度です。『技能章制』は、社会にも、自分自身にも役立つ各種の技能を自分で選択し、修得することによって、自己の能力や適性を見つけ、個性を伸ばしながら、集団の中での自分の責任を自覚した立派な人間に成長するよう十分な配慮がなされています。

## 3 ボーイスカウト運動と宗教、政治

スカウト、加盟員はそれぞれの明確な信仰を持つことを奨励するとしています。ここでいう信仰とは、特定の教宗派を対象に言われているのではなく、いかなる信仰も認めるということです。そして、日本連盟は特定の宗教団体を支持せず、またこれらの団体からの制約も受けないということです。スカウトたちが宗教について関心を持ち、信仰心を高めることを奨

励するため各教宗派ごとに宗教章の授与制度を設けています。

民主国家では、政治に参加するのは国民の権利であり、義務でもあります。加盟員が法律の許す範囲において、かつ、スカウトの「ちかい」と「おきて」に背かない限り、団体や結社等に加入し、政治活動を行うことは自由であるとしています。

ボーイスカウトの組織は、政治的活動を目的とするものではありません。ボーイスカウト運動や組織が政治的活動や特定の政治目的に利用したり、されたり、また誤解を受けたりすることの無いよう注意しなければなりません。ボーイスカウトの制服を着用して、またスカウトの代表という立場で、政治的会合や活動に加わることは厳しく禁止されています。

## 4 ボーイスカウトの活動

前述されているように、ボーイスカウトの活動は野外活動を通じて強健な身体、立派な品性、人生に役立つ技能、奉仕の精神等の良い社会人となれるように、資質を養い、“やくそくときまり”、“やくそくときだめ”、“ちかいとおきて”を実践することが、ボーイスカウトの活動の基本であり、年齢層に応じて5つの隊に分かれて、一貫したプログラムに基づいてそれぞれの隊に適したプログラムで活動しています。

各隊の説明や活動については、後述されますので一読をお願いします。

活動に必要な制服は野外活動に便利で、ふさわしい生地と色、デザインを使っています。制服を着用することはスカウトであることを示す最も明瞭なしるしであり、スカウトの誇りが込められています。国内はもとより、世界各国共通で、この制服を見れば、言葉は通じなくても、スカウトの仲間であり、親しい交わりができます。活動にはスカウトとともに指導者がいます。指導者には各隊を預かる隊長、副長等と団を運営する団委員長、団委員等色々なところで活動していただいています。スカウトが成人して指導者になる場合や保護者の方がともに研修を受けて、スカウトの指導にあたりたり、団で活動いただいています。ともにボーイスカウト運動の趣旨に賛同し、運動やスカウト育成に情熱を持ち、熱心に何の報酬も無く奉仕していただいているボランティアの方々です。しかし、スカウトの訓育育成を指導者に任せておけばよいということではありません。

この活動には、保護者の協力が必要です。少年たちを育成する責任者は第一には少年を扶養する義務のある保護者ではないでしょうか。学校教育もスカウト教育も良い家庭教育の基盤に立ってこそ、成果が上がるのです。

まして、スカウト教育は、運動の目的と方法に賛同した方々の自由意思による参加によって成り立っている運動であり、教育なのです。関心と協力は得られるものと思います。保護者の参加によって親と子(スカウト)の対話や理解の場が増え、家庭教育にも反映してくるものと思います。活動はこのような場も設けています。保護者の方々の中から指導者として参加活動していただける方を求めています。

## 5 ボーイスカウト城陽第1団への入団、入隊

ボーイスカウトに入団してスカウトとして、活動するには、幼稚園等年長組9月から男女とも入団でき、男女とも同じプログラムで活動しています。

城陽第1団では、女子スカウトや女性指導者も活動しています。

### 年齢に応じた5つの隊

ビーバー隊	幼稚園等年長組9月から	
カブ隊	小学生2年生9月から	
ボーイ隊	小学生5年生9月から	
ベンチャー隊	中学生3年生9月から	
ローバー隊	20歳以上(18歳以上)	
指導者	20歳以上	



入団に際しては、入団申込書等に必要事項を記入して団事務局の担当、又は隊の指導者に届けてください（郵送又は手渡し）。折り返し、ご案内します。

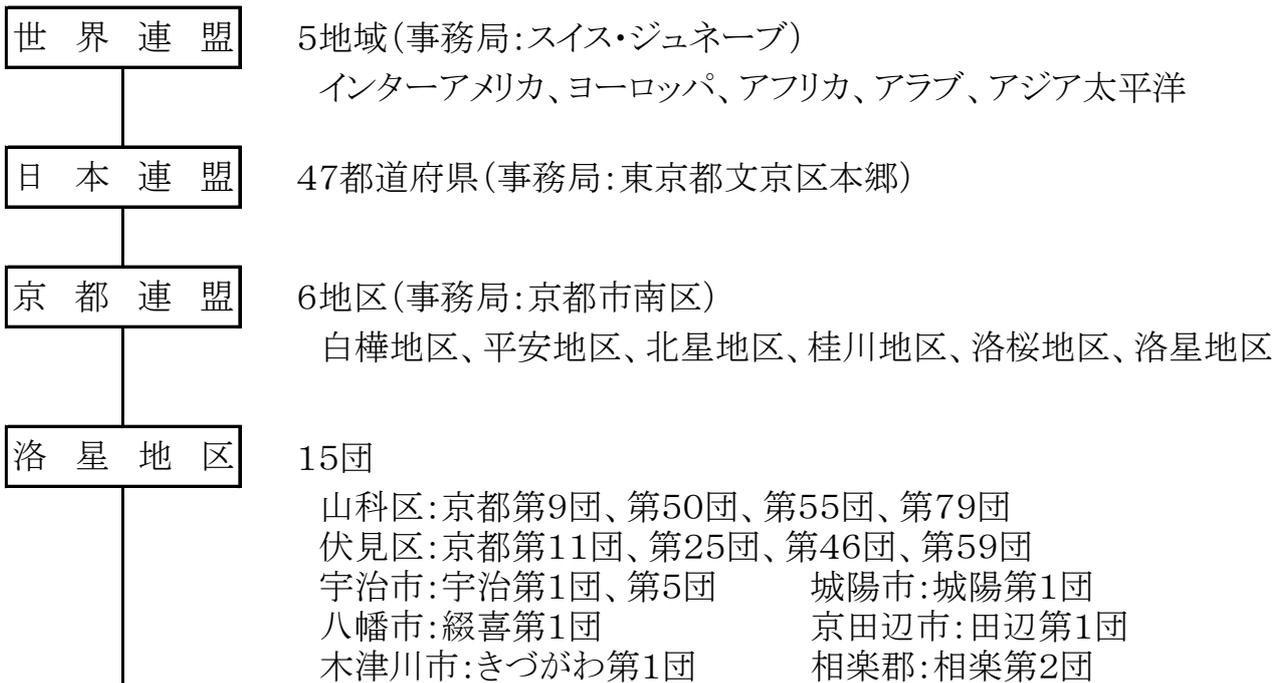
申込記入その他、入団に際して分からないことがあれば、下記事務局まで、お電話ください。入団時に入団金としてスカウト1人当たり5,000円を納入していただきます。別途、隊からの費用と一緒にご請求させていただきます。

### 日本ボーイスカウト城陽第1団 事務局

〒610-0121 城陽市寺田宮ノ谷18-1 (高橋方)

TEL/FAX 0774-53-2137

## 6 ボーイスカウトの組織図



### 城陽第1団

育成会      団の育成のため、必要な施設や経費を支援

団委員会      隊の活動を支援

団  
会  
議

(各隊)

ビーバー隊      幼稚園等年長組9月から

カブ隊      小学校2年生9月から

ボーイ隊      小学校5年生9月から

ベンチャー隊      中学校3年生9月から(最長、満20歳未満まで)

ローバー隊      満18歳から

スカウトは、城陽市だけではなく、宇治市・久御山町・京田辺市など、広い地域からやってきます。  
また、ビーバー隊・カブ隊・ボーイ隊・ベンチャー隊に女子スカウトがおり、男女とも同じプログラムで活動しております。

## 7 スカウト育成会について

### <日本ボーイスカウト城陽第1団育成会>

育成会は、日本ボーイスカウト城陽第1団の目的達成のため、奉仕の精神を持って、その存続を維持し、また教育に必要な施設と経費について責任を負うことを目的としています。

#### その目的達成の事業

- 1 スカウト訓育に必要な需品の調整並びに供給
- 2 スカウトに対する激励援護
- 3 スカウト運動の啓蒙宣伝
- 4 スカウトの関係行事の参加
- 5 隊員並びに団員募集に関する協力
- 6 会員相互の親睦及び研鑽
- 7 その他目的達成のための事業



### <会員と役員>

- 正会員 スカウト隊員の保護者は全て正会員となります。  
スカウト隊員の保護者以外の方も正会員となることができます。
- 賛助会員 正会員以外でスカウト運動の趣旨に賛同し、行事や活動に協力していただける方
- 特別協力会員 スカウト運動の趣旨に賛同し、協力していただける企業、団体

### <役員>

会長 1名 副会長 3名 監事 2名 会計 2名 理事 若干名

### <会費>

会費は、一口年額 12,000 円(郵便振込により郵便局より振込んでいただきます。)

特別協力会費は、一口年額 10,000 円

会費は、会員であれば何口でも申込むことができます。正会員会費は隊員の人数に関係なく、一軒最低一口です。ただし、登録費は登録隊員人数です。

既納の会費はいかなる理由があっても、返還しません。(育成会規約第 14 条)

### <年度及び総会>

事業年度は毎年 10 月 1 日から翌年 9 月 30 日までとし、年 1 回定期総会を開き、報告並びに重要事項、計画を審議し、決定します。臨時総会は必要の都度招集します。その他、日本ボーイスカウト城陽第 1 団育成会規約によります。

## 8 団について

### <スカウト教育運営単位として団と組織>

ボーイスカウト教育の運営をする単位を団と言います。団にはボーイスカウト教育を実施する単位である隊と、団の運営に責任を持つ団委員会で構成されます。そして、その団を支援し、維持して行く責任を持つ育成団体とで成り立っています。

城陽第1団ではビーバー隊、カブ隊、ボーイ隊、ベンチャー隊、ローバー隊の5隊があり、それぞれに隊長、副長等のリーダーとスカウトが活発に活動しています。

ボーイスカウトは政界的な国際組織です。スイス・ジュネーブに本部のある世界連盟、5地域に216か国あり、日本連盟があつて、京都府には京都連盟があり、47都道府県それぞれに組織があります。京都連盟は6地区に分け、城陽第1団ほか近隣15団で洛星地区を構成しています。

### <団委員会>

スカウトの訓育活動は、団内の各隊で行われ、団委員会は隊の活動を支援し、活発化し、永続させるすべての責任を持ち、スカウト運動の単位である団の運営を行う重要な組織です。

### <団委員会の役目>

- 1 団の資産の管理
- 2 団の財政の責任
- 3 集会場・野営実施に関する便宜協力及び備品購入管理の便宜提供
- 4 各隊隊長、副長の選任と任命する責任と指導者に対する養成訓練参加の援助
- 5 団内スカウトの進歩の促進
- 6 入退団者管理と団の加盟登録に関する責任
- 7 団内スカウトの健康と安全に関する留意
- 8 スカウト運動の参加募集広報の普及活動
- 9 団の記録と書類資料の整備と保存

### <団会議>

団会議は、団の育成に関する事項を協議することを目的とし、団委員長(又は副団委員長)と各隊隊長と副長で構成され、協議します。

### <団会議の具体的協議事項>

- 1 団内の各隊の訓練がムラなく進展し、スカウトたちが進歩向上するよう協力する。
- 2 各隊プログラムの調整(各隊訓練の重複を避けるよう配慮)を図る。
- 3 団内各部門で服装、進歩、ちかい、起きて、訓練の基準の維持の点検
- 4 訓練場所及び訓練用具の使用の調整、教育上の問題点、悩み、疑問の解決
- 5 団内各隊の予算作成の検討と隊費の収入状況、合同式典と行事の立案と実施
- 6 各隊指導者の研修参加状況
- 7 育成団体、団委員会への要望事項及び関連団体の伝達事項
- 8 スカウト保護者との情報交換状況

## 9 ビーバースカウト隊について

### 1 ねらい

#### (1) みんなとともになかよく遊ぶ

遊びは児童の成長に欠くことのできない大切なものです。児童は遊びを通じて他の人とのかかわりや社会的なルールを学びます。ビーバースカウト活動では、活発なゲームやスポーツ・遊びをたくさん与えて、自主性と協調性を学ばせ、基本的な生活技能を身につけさせます。自分の将来への礎を築くことは、「自分に対するつとめ」の第一歩です。

#### (2) 自然に親しむ

児童のときから、自然に親しみ、自然の驚異や営みについて学ぶことは、何より必要です。ビーバースカウト活動では自然とのふれあいを大切にしますので、ビーバースカウトたちは、自然の美しさ、あるいはもろさなどをまのあたりにしたり、話を聞いたり、また、実際の体験を通じて、より多くのことを知ることができます。自然を大切にすることに気づくことから、物を大切にできる優しい心や、たくましく生きていく心構えを育てます。

#### (3) 楽しみや喜びをわかちあう

人間同士や自然に向かって積極的にかかわりを持っていくことが仲間意識のもとになります。ビーバースカウト活動では、この年代の児童が身の回りの人のことを認識できるよう配慮し、また、集団活動の中で積極性(やる気)、協調性(思いやり)を養うプログラムを与えます。活動を通じて、仲間とのつきあい方、社会生活の過ごし方に対して、自然に正しい態度が身につくようになり、それが自分に対する自信と仲間に対する思いやりの心を育成します。特にビーバースカウト活動では「やってみようとする心」「より多くのことを経験すること」「楽しみながら学ぶこと」を大切にします。

### 2 目標

- ・神(仏)と身のまわりの人たちについて認識させる。
- ・自然に親しませる。
- ・表現力を伸ばす。
- ・所属する喜びを味あわせる。
- ・深く考える力を育てる。
- ・健康と安全について認識させる。
- ・活発に活動させる。
- ・体験を通じて学ばせる。
- ・愛と感謝の心を育てる。



これらの目標を活動の中で知らず知らずのうちに体得できるように、ゲーム、話、簡単な工作、運動、劇、歌などを通じて、これらの目標が具体化します。

### 3 やくそくときまり

#### ◎ビーバースカウトのやくそく

ぼくは(わたしは)、みんなとなかよくします。  
ビーバーたいのきまりをまもります。

#### ◎ビーバーたいのきまり

ビーバースカウトは、げんきにあそびます。  
ビーバースカウトは、ものをたいせつにします。  
ビーバースカウトは、よいことをします。

#### ◎ビーバースカウトのモットー なかよし

#### ◎スローガン ひびのぜんこう(日々の善行)

### 4 進歩

ビーバースカウト一人ひとりの成長をたたえるために、あるいは活動参加への励ましとなるものとして、5つの課目と38の細目が設定されています。

#### (1) せいかつ

- ① かみさまやほとけさまにおまいりする。
- ② あいさつをする。
- ③ たい、くみ、いえですすんです。
- ④ おさないものや、よわいものには、しんせつにする。
- ⑤ ほしいものがあってもすこしのあいだがまんできる。
- ⑥ はいといいえがはっきりいえる。
- ⑦ いえのきまりをまもる。
- ⑧ みのまわりをいつもきちんとかたづけておく。

#### (2) けんこう

- ① はやくねてはやくおきる。
- ② たべもののすききらいをなくすようにする。
- ③ うんどうする。(てつぼう、なわとび、かけっこ、すいえい、ちからだめしなど)
- ④ ゲームのルールをまもってゲームをする。
- ⑤ むかしからのあそびをおそわってする。
- ⑥ きんじょのたいいくぎょうじにさんかする。
- ⑦ て、あし、からだなどのせいけつにきをつける。

#### (3) しぜん

- ① はなややさいなどをそだてる。
- ② しぜんのいきものやてんきなどをきをつけてみる。
- ③ しぜんのざいりょうであそびどうぐをつくってあそぶ。
- ④ きせつのうつりかわりやとくちょうをきをつけてみる。
- ⑤ ピクニックやたんけんにてかける。
- ⑥ つきやほしなどのようすをきをつけてみる。
- ⑦ かんたんなりようりをする。

#### (4) しゃかい

- ① ちかくのこうじょうやはくぶつかんなどをけんがくする。
- ② きんじょのおまつりなどにさんかする。
- ③ みんなのためにはたらくひとたちのことがわかる。
- ④ みんなのためになることをする。
- ⑤ ボーイスカウトなかまのあつまりにさんかする。
- ⑥ こうつうのきまりをまもる。
- ⑦ よそのくにのはなしをきく。

#### (5) ひょうげん

- ① うたをうたう。
- ② すきながつきをえんそうする。
- ③ かんたんなげきをする。
- ④ えをかいたり、えをみたりする。
- ⑤ かんたんなダンスやおどりをする。
- ⑥ みんなのまえでおはなしをする。
- ⑦ ざいりょうやどうぐをくふうしてこうさくをする。
- ⑧ ほんをよんだり、かんそうをはなしたりする。
- ⑨ てがみやにつきをかく。



### 5 ビーバー隊のひとたち

#### (1) 隊長

ビーバー隊の責任者です。副長の養成、プログラム会議の開催、隊プログラムの作成、補助者の指導、隊集会、行事などを行います。

#### (2) 副長

隊長を補佐して、色々な任務を分担してやります。

#### (3) 補助者

隊リーダーの補助及びスカウトの安全について注意していただく保護者の方

#### (4) スカウト

ビーバースカウト・・・幼稚園等年長組9月から 小学校1年生8月まで  
ビッグビーバー・・・小学校1年生9月から カブ隊に上進するまで

### 1 カブスカウト活動の目的（ねらい）

カブスカウト活動は、児童期におけるギャング年代の少年（男の子、女の子）たちの発達に応じて、必ず身につけるとよい特質、すなわち、よい社会人としての基本を体得させ、それを次の成長段階であるボーイスカウトへつなげていくことを目指すものです。楽しく遊びながら、自分で考え自分のことは自分ですること、みんなでルールを作って仲良く遊ぶこと、自然や社会とふれあうこと。こうしてフェアプレー、正義、忍耐、誠実、協調、責任などを学び、自立心や創造力を養います。

### 2 カブスカウト活動の目標

- ・神（仏）をうやまい、自分への責任を認識させる。
- ・自然に親しみ、愛護する心を育てる。
- ・小グループの中で、互いに影響し合う機会を提供する。
- ・所属意識を伸ばし、目的を達成したときの充実感を感じさせる。
- ・自ら考え判断し、決断する力を養う。
- ・健康と安全について認識させる。
- ・好奇心と冒険心を満足させる。
- ・体の動きを高め、創造力を伸ばす。
- ・体験を通じて学ばせる。
- ・フェアプレーの精神と正義感を養う。
- ・愛と感謝の心を育てる。

これらの目標を活動の中で自然に体得できるように、ゲーム、話、運動、工作、劇、歌など色々な体験を通じて具体化します。

### 3 進歩制度

少年（男の子、女の子）には、それぞれ持って生まれた才能もあれば、成長につれて興味を持つようになった趣味やスポーツもあります。一人ひとりが個性豊かに伸びる可能性はいっぱい秘めています。そんな少年たちに、その成長に応じて個性を伸ばしながら社会人として必要な資質を一つ一つ身につけさせるようにするため作られた制度です。年齢に合わせて進歩課程を設けそれぞれ有意義で楽しいプログラムを設けています。

#### （1）進歩の課程

仮入隊	りすの道	
うさぎの課程	小学校2年9月から	小学校3年8月まで
しかの課程	小学校3年9月から	小学校4年8月まで
くまの課程	小学校4年9月から	小学校5年8月まで

## (2) 進歩課目

### ◎修得課目 (進級章)クリア章、(テキスト)カブブック

各々の年齢の少年として、また、大人になった時によい社会人として幸福な生活を送るためにぜひとも修得し、身につけてもらいたいと思われることがらを、人格・健康・技能・奉仕の4分野にわたって設定した必ず修得しなければならない課目です。

### ◎選択課目 (チャレンジ章)各章あり、(テキスト)チャレンジブック

生活の幅を広げ、個性を伸ばすのに役立つためのもので、少年が余暇を作り出して自分の興味と計画によって選択し、挑戦する課目です。

色々な活動をしながら、スカウトたちはこれらの課目を修得するように動機づけられ、自分で自主的に努力します。努力が実って課目を完修すると記章が隊長から授与され、皆から認められるとともに、制服を着用して実行することにより自信がついてきます。

### 修得課目の内容一覧と記章類

区分	うさぎ	細目数	しか	細目数	くま	細目数
1 信仰とたしなみ	笑顔	2	感謝	2	スマート	2
2 健康と安全	運動	1	スポーツ	1	成長	1
	安全	1	事故の防止	1	事故への対応	1
	清潔	1	健康	1	救急	1
3 技能と野外活動	計測	1	地図	1	追跡	1
	なわ結び	1	なわ結び	1	なわ結び	1
	工作	1	工作	1	工作	1
	お話	1	表現	1	民話と脚本	1
	観察	1	自然観察	1	自然と生活	1
	食事	1	料理	1	炊事	1
	野外活動	1	野外活動	1	野外活動	1
4 社会生活	日本の国旗	1	日本の国旗	1	日本の国旗	1
	わたしの町	1	くらしのマナー	1	生活と環境	1
	世界の国々	2	世界の国々	2	世界の国々	2
	わたしの仕事	1	役に立つ	1	奉仕	1
計		17		17		17

記章と 進級章	進級章				完修章(クリア章)		上進章
							
	リスパッチ	うさぎ章	しか章	くま章			

選択課目（チャレンジ章）一覧

区分	チャレンジ章		細目数	区分	チャレンジ章		細目数		
1 社 会 生 活	1	国 際		4	3 技 術	6	修理博士		5
	2	市 民		6		7	乗り物博士		4
	3	友 情		4		8	技術博士		3
	4	動物愛護		4	9	救急博士		6	
	5	案 内		4	10	特技博士		1	
	6	自然保護		3	4 ス ポ ー ツ	1	水泳選手		4
	7	手 伝 い		5		2	運動選手		5
	8	災害救助員		3		3	チームスポーツ選手		4
2 自 然 と 野 外 活 動	1	天文学者		4		4	スキー選手		6
	2	自然観察官		2	5	アイススケート選手		3	
	3	ハイカー		4	5 文 化 ・ 趣 味	1	収 集 家		2
	4	キャンパー		6		2	画 家		4
	5	地質学者		3		3	音 楽 家		4
	6	気象学者		4		4	料 理 家		4
	7	探 検 家		3		5	フィッシャーマン		4
3 技 術	1	写真博士		4		6	旅 行 家		4
	2	コンピュータ博士		3	7	園 芸 家		5	
	3	自転車博士		3	8	演 劇 家		5	
	4	工作博士		4	9	読 書 家		6	
	5	通信博士		5	10	マジシャン		4	

## 4 隊集会・組集会

### <組>

スカウト6名を標準として組を作り、仲間の兄貴分であるデンコーチとスカウトの良き理解者であり、指導者としてのデンリーダーがいます。組をスカウトたちの集まる所を動物の巣にたとえて、デン(Den)と言っています。

### <組集会>

組ごとに独自の活動を行います。

### <隊>

全組のスカウトたちと隊長、副長、インストラクター、デンリーダー、デンコーチで組織されたものです。

### <隊集会>

指導者会議で立案されたプログラム（キャンプやハイキング、見学等の野外活動とゲームやロープ結び、規律訓練、カブブックの修得等の室内活動）を行っています。城陽第1団では月2回主に日曜日に隊集会を実施し、必要の都度、組集会を実施してもらっています。

### <活動時間>

室内隊集会（半日） 野外活動（ハイキングなど1日）

### <舎営>

春の舎営（1泊2日） 夏の舎営（2泊3日）

スカウト仲間が寝食をともにし、野外活動を通じて自然を満喫し、色々な体験をして、仲間同士のつながりを深め、協力をして生活することを目的に舎営を行っています。

これらの活動とカブブック、チャレンジブックをテキストとする修得課目、選択課目への取組があいまって、カブスカウト活動となります。活動には指導者とスカウトの保護者や家族がひとつになってスカウトを支えます。

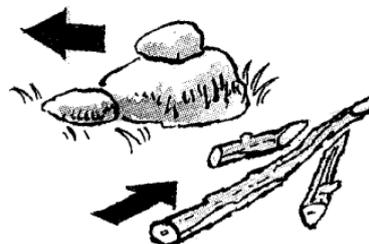
## 5 指導者

### (1) 隊長

カブ隊の訓育と運営の責任者で団委員会が任命します。

#### 隊長の役目

- ① 副長の養成と訓練
- ② プログラム会議の開催、立案、展開、実施の決定と責任
- ③ デンリーダー、デンコーチの指導
- ④ 隊集会や隊行事の主宰と指導
- ⑤ 保護者との連携（家族の協力）
- ⑥ 隊の登録
- ⑦ 隊の記録と保存
- ⑧ 団、育成団体への報告
- ⑨ 地区との関係



## (2) 副長

隊長を補佐し、隊の運営がうまく円滑に行えるよう、協力してそれぞれを分担して行います。具体的な役務としては、プログラムの実行、買出し等の庶務、財政面の管理、進捗状況・入隊・上進の発表等を分担し、隊長を補佐します。

## (3) 副長補

18歳以上の男子又は女子でカブ隊の指導者としてふさわしいと思われる人を隊長が任命します。

カブスカウトの若さあふれる活力を野外で発散させるための準備や指導・後始末などの機動力として、また、デンコーチへのつながりが持てるパイプ役として、カブスカウト活動に活気を与えてくれる若さあふれる若い世代の登用が望まれます。

## (4) インストラクター（特技指導者）

18歳以上で、工作、音楽、手品等のチャレンジ課目や野外活動の技能的なことを指導することができる特技指導者で、必要に応じて活動に参加してもらいます。

## (5) デンリーダー

組の保護者役であり、組の運営の責任者です。男の方であればお父さん役であり、女の方であればお母さん役となります。カブスカウトの保護者の中から選任され、カブ隊の隊長及びデンコーチと協力してカブスカウトの活動を進めるとともに、家庭におけるカブ活動のために保護者の色々な相談に応じアドバイスします

お母さん役のデンリーダーは活動中、組の子の様子を見たり、悪さをすれば叱ったりして組長とともに組をまとめます。時には子どもたちは危ないようなこともします。その時は、ひとりのスカウトの母親でなく、組全体の母親として他人の子だからと遠慮せず厳しく叱ってください。それでも駄目なときはお父さん役のデンリーダーか隊長に連絡をして解決をしてください。色々面倒をおかけしますが、よろしく願います。

お父さん役のデンリーダーは前述のようにお母さん役とともに組をまとめ、荷物を運んだり、工作等のお手伝いをして指導し、お父さんでなければできない仕事を分担してもらいます。また、組には「お母さんの会」のような保護者会があって、団リーダーとスカウトのお母さん方との連絡や相談、カブブック、舎営等の野外活動の説明会等の場を設けています。そこでスカウトのことについて色々話し合ってくださいますので、ご家庭での協力のほど、よろしく願います。

## (6) デンコーチ

組のお兄さんやお姉さんの役です。団内のボーイ隊から派遣された2級以上のスカウトを各組に選任します。ゲームやスタンプ、ロープ結びなどボーイ隊で覚えたことを指導します。

## 6 やくそくとさだめ

カブ隊に入隊する入隊式では、スカウトにカブスカウトのやくそくの実践を誓い約束をします。それ以降、カブ隊を卒隊するまでスカウトは“やくそくとさだめ”の実践を心がけて活動します。

### ◎カブスカウトのやくそく

ぼく（わたくし）は まじめにしっかりやります  
カブ隊のさだめをまもります。

### ◎カブ隊のさだめ

- ① カブスカウトは すなおであります
- ② カブスカウトは 自分のことは自分でします
- ③ カブスカウトは たがいに助けあいます
- ④ カブスカウトは おさないものをいたわります
- ⑤ カブスカウトは すすんでよいことをします

### ◎カブスカウトのモットー

“いつも元気”

### ◎スローガン

“日々の善行”

(いつでもよい行いをすることに心がけてください)

私たち人間が毎日生活しているのは、自分以外のたくさんの人々、天然自然の数知れないおかげをこうむっているのです。このことを毎日思い出して自分のできるお返しをしようというものです。

カブスカウトはまだ小さな少年ですが、自分ができるお返しの機会をいつも探していて、どんな小さな事柄でもよいから実行するようにしましょう。恥ずかしがらずに勇敢に実行することが大切です。

そしてお父さんお母さん保護者の方々、これらを実行している少年を支えてください。そして温かく見守ってください、お願いします。



## 11 ボーイスカウト隊について

ボーイ隊は、月に1～2回の隊の活動を開催します。ボーイ隊はいくつかの班に分かれており、他のいくつかの班と隊を編成し、隊長や副長とともに、ハイキングやキャンプを始め多くの活動を行います。隊の活動、隊集会は他の班とあるときは競争したり、あるいは協力したり、ゲームを行ったり、各班の進歩具合を競い合ったりします。

隊活動の内容は、各班を代表して班長、次長が集まり、上級班長と呼ばれるボーイ隊の1級以上のスカウトかベンチャー隊から派遣された18歳以下のスカウトの進行で話し合い、計画していきます。この会議での隊長は助言者となります。この会議を班長会議又はグリーンバー会議と呼んだりします。ボーイ隊では隊活動を自分たちで考え、自分たちで行動することを主としています。



### ◎進級記章・ターゲットバッジ・マスターバッジについて

記章は、初級→2級→1級→菊スカウトと進級していきます。バッジは、4つの活動分野に53の選択課目があり、1つの課目には6つの細目があります。そのうち3つに挑戦すると、ターゲットバッジが修得でき、6つすべてを履修するとマスターバッジが授与されます。

### ◎日本ジャンボリーについて

日本ジャンボリーとは、4年に1回開催される大会で、全国から何万人ものボーイ隊のスカウトが集まる大きな大会です。

毎回開催される場所も違い、夏に1週間近くキャンプをして、知らない人と仲間になり、いろいろなプログラムに取り組みます。この大会に参加して帰ってきたスカウトを見ると、成長したなど感じさせられます。

2級以上という規定があるのですが、ボーイ隊に入隊したスカウトにはぜひ参加してほしいと思います。



### ◎最後に

ボーイ隊に入隊する年齢は、小学校高学年から中学校3年生で、自らが学ぶ、考える、行動するということが芽生えてくる時期かと思います。

ボーイスカウトには、誰が1番といった順位はありません。スカウト自身が努力すればするほど技能等が身につく、みんなが認めてくれます。身についたことは、自分のためにも他の人に対しても役に立ちます。ぜひ頑張ってください。



## 12 ベンチャースカウト隊について

ベンチャー隊は中学3年生9月から20歳未満のスカウトが活動している隊です。

### ◎ベンチャースカウト活動

21世紀に活躍する若者には「国際的な感覚を身につけ、自分で考え自分で行動したことに責任が取れる人」が求められています。スカウト流に言えば「ちかいとおきて」を実践し、「自分で考え、自分で行動し、そして自らに責任を持てるスカウト」と言えます。活動のテーマを広い分野から求め、能力と希望に合ったプログラムを作り上げていくことです。プログラムには個人で活動するプログラムを個人プロジェクト、数人で活動するプログラムをグループプロジェクトと呼びます。

城陽第1団ベンチャー隊では議長を中心に活動し、他隊への奉仕活動も行っています。ベンチャー隊で自分の可能性にチャレンジしてください。

## 13 ローバースカウト隊について

城陽第1団のローバー隊は基本的にベンチャースカウトが20歳になった日から26歳の誕生日までのスカウトのことを言いますが、18歳になった時点でベンチャースカウトとしてベンチャー隊に残るか、ローバー隊に上進するかを決めることができます。しかし、城陽第1団では、18歳でローバー隊に上進したスカウトはこの制度になってからはいません。ローバー隊はボーイスカウトとしての最終の隊です。既にご存知のとおりビーバー隊、カブ隊、ボーイ隊、ベンチャー隊と上進して最後の隊がローバー隊です。

城陽第1団のローバー隊は、「ローバーリング ツウ サクセス」の中に書かれているように「自分のカヌーは自分で漕ぐ」をモットーに自分の立てた目標に向かって自分で進んでいける人間になれることを目指して活動しています。年齢を見ていただければ活動はできにくいのですが、城陽第1団ローバー隊の活動の特徴としては今まで城陽第1団でお世話になった各隊のリーダーとして奉仕ができることで、ビーバー隊、カブ隊、ボーイ隊、ベンチャー隊のすべての隊にリーダーとして奉仕活動をしています。奉仕活動以外の活動としては毎月第1土曜日の定例隊集会で決定されます。年末年始のイベントを始めスキー・スノーボード、他団との合同キャンプ、隊キャンプ、遠征等がありますが、基本的にはソロ活動を推奨しており、各自がやりたいことを企画、計画し賛同する仲間とともに活動することを尊重しています。団内の活動以外にも、洛星地区、京都連盟、日本連盟、また世界に向けて活動の場所用意されており、海外遠征も企画しています。皆様のご息が城陽第1団に入団されて将来はローバー隊に上進され、一人前の大人になり、リーダーとして後輩の指導に協力をしていただけることが、このスカウト運動の究極の目標と考えており、城陽第1団のスカウティングがあると思っていますのでよろしくお願いいたします。ご息が入団されましたら保護者の方々がローバー隊のアドバイザーとしてローバー隊とともに活動することも可能です。ローバー隊はその道のプロを歓迎いたします。

一緒に活動に参加してみませんか。





いやさか！JOYO

いやさか！JOYO